

第3回あおもり立志挑戦塾

平成 25 年 7 月 6 日(土)~7 日(日) 青森公立大学国際交流ハウス(青森市)

□天明塾長挨拶 「運が味方する生き方」

今日は運が味方する生き方を考えてみます。私は経営コンサルタントとして、いろいろな会社のサポートをしてきました。経営力を式で書くと、経営力=戦略×人間力×運、そう思っているんです。

①経営戦略、事業計画、実績管理、業績評価など。大事なことですよね。だけど②社員の間力が十分でなかったら、戦略ってうまくいかない。だから人間力が非常に大事になってくる。ところが、いい戦略を作って、人間力がよくても、運が味方しないと最終の成果は出て来ない。運って何ですか。もう自分の能力だとか努力ではどうしようもない巡り合わせを運というんです。これが応援してくれないと、なかなか成果が出て来ない。

野田先生は学生に向けて、運を味方にする方法を3つ言った。「運は準備だ。徹底して準備をしているところに運はついてくる。」「運は信念だ。信念を持った人のところに運はついてくる。」「運は関係である。」なるほどなと思った。僕の視点はこの5つ。

1 番目、強く想い続ける。人生は思ったとおりになると思っている人が成功している。成功者は皆、強運。運が強いと思っているから運が味方する。(2)「引き寄せの法則」。思ったことが引き寄せられてくる。病氣も「治った」と思っていると、肉体は後から反応してくる。(3) 大事なことは頭で思ってもダメ。潜在意識で思え。ここは大事なところ。氷山の一角。氷山というのは上に出ているのはちょっと。下の方が潜在意識、

2 番目、なったことを喜ぶ、感謝。大事なことは、嫌なことでも、あるいは嫌なことだから感謝で受け止める。

(1) 宇宙の意思は全て良い方向に導いている。「何が起ころうとも、それは自分に良かれと思った宇宙の意思なんだから、喜んで受け入れなくちゃいけない。」(2) すべては「必然」「必要」「チャンス」。必然というのは原因があって結果が出てくる。神様は口で僕らに教えることができないから、何か現象を持って教えてくれる。起こったということは、絶対今がチャンスだから喜んで受け入れる。(3) イヤなことが起こった時にこそ感謝。事実は1つしかない。何か災いが起きた時、「そのお陰で私はこうなれる」って受け止めるか。「人生を歩んでいく中で、いろいろな災難が降りかかってくる。災難が降りかかってくることは仕方がないこと。その時、災難をどう受け止めるかで、その後の人生が大きく変わってくる」。(4) 起こったことで「因」が消える。悪いことがあった時に嘆いたり落ち込んだりするんじゃなくて、感謝するということ。

2 ページ。先祖につながる。子ども・孫の幸せを願わない先祖はいない。

(1) 先祖は命の根元。自分は両親・祖父母・曾祖父母、ずっと上に行って先祖、遠祖につながっていく。自分はその一番末端にいるわけだ。バトンをずっと先祖から受けてきて、今、子どもに渡そうとしている。(2) 先祖があって自分がある。お陰様の心が大事。自分がここにいるのもお陰様。お父さん・お母さんが育ててくれて。人間に生まれる確率は1億円の宝くじに100万回連続して当たる確率と同じ。生まれてきたことに感謝。(4) 生命の暗号。遺伝子の不思議、生命体の遺伝子構造は皆同じ。自分の親のずーっと上にいくと、宇宙の創造主みたいな人がいる。それをサムシング・グレートと名付けている。自分の祖先みたいなものだから、自分が何か志を持ってこれをやろうと思ったことを応援しないはずがない。宇宙はものすごい精巧にできている。誰か大きな存在がこの宇宙を創ったとしか考えられない。だから、誰か知らない創造主をサムシング・グレートというんだ。大事なことは配線がちゃんと繋がっていること。もしどこかで切れていたら、サムシング・グレートがスイッチオンしたってここで止まっちゃう。

4 番目、小さな徳を積み重ねる。積善の家に余慶あり。

(1) 人徳、家徳、社徳。徳とは「他を幸せにする行為の貯金」。貯金はどこに貯金をしているんですか。「宇宙銀行」に。四国の宇和島に東洋軒というお店がある。先生、うちは社員皆で宇宙銀行に徳の貯金をしているんです。いいですよ、宇宙銀行は。」レイオフがないし、自分で使い切れないと子どもや孫に受け継がれていくから。「今年はずゴミ拾いから。」このゴミ拾いは宇宙銀行に徳を貯金しているんですよ。小さなことを積み重ねていく、そうすると運が味方してくれる。



5 番目。言霊を大事にする。言葉には魂が宿っているということ。だから、いい言葉を使おう。いい言葉を使

っていると良くなる、悪い言葉を使っていると悪くなる。お陰様、ありがとうございます、もったいない、ごめんなさい。私の口癖はお陰様、ありがとうございます、もったいない、ごめんなさい。言霊って今の言葉で言うと波動です。言葉には波動がある。全ての物質はその物質固有の波動を持っている。だからありがとうという言葉にはいい波動が、バカヤロウという言葉には悪い波動がある。

ホ・オポノポノというハワイの癒しの手法があります。ありがとうございます、ごめんなさい、許してください、愛しています、この4つをひたすら口に出して言うことで、自分の大脳にある悪い記憶が全部クリーニングされていく。ホ・オポノポノのホというのは完成という意味だそうです。完成に向けて、ありがとうございます、ごめんなさい、許してください、愛しています。ハワイ州立大学病院のヒューレン院長。この病院は犯罪者で精神的な病になっている人達だけが入る、乱れた病院だった。ヒューレンさんがやったことは、病院の患者さんのカルテを毎日見ながら、ありがとうございます、ごめんなさい、許してください、愛しています、この4つをひたすら毎日繰り返していく。患者さ

□講話

講師

スワーダ・アル・ムダファーラ 氏

(ライフコーチ「砂漠に創った世界一の学校」創業者 元校長)

題名 「しこう」

今日は、自分にチャレンジしていくというところから入って行ってほしいと思って、私の経験を語らせていただきます。

今日の私のおしゃべりのタイトルは「しこう」です。「しこう」というこのひらがなを漢字にしてみてください。いくつできます？この「思考」が多そうでした。思いを巡らしたり結論を導き出すために方法を考えたりと模索している。思考は精神の活動なんだそうです。次は何が出てくるでしょう。考えを決めたら計画を立てますよね。それは工事を行うための「施工」。その基礎作りができれば、計画を立てて今度はそれを絶対にやってみようと思って実行していきます。「試行」です。次は何をしたいか。「至高」、自分達で考えたことを試しにやってみて、その中で自分の方向性を見だしていったら、それをまず成功させたいと思うのが私達じゃないですか。挑戦ですよ、チャレンジ。ということで「至高」。この上なく優れている。

今、見て下さっているのが「アザン・ビン・ケイス私立学校」。この学校は約 16,000 m²の敷地に 10,000 m²の建物、日本のお金で当時 10 億かかりました。1990 年に開いて、生徒 5 名入りました。幼稚園 1 年から入って、毎年 1 年ごとにクラスを上げていきました。なぜ教育をしようと考えたか。オマーンで学校の様子を見ていて、私は日本で何てすばらしい教育を受けてきたんだろうと感じました。オマーンに教育が無かったわけではありません。でも、私が受けてきた良い教育は、正直言って

んと会ったりするんじゃないよ。院長室でこれを見ながらありがとうございます、ごめんなさい、許してください、愛してください。3 年くらい経ったらどんどん患者さんの病気が治って退院するようになった。何年か経ったら誰も患者さんがいなくなって、病院は役割を果たして閉鎖された。なぜ患者に会わないで、ホ・オポノポノだけやってたか。世の中は全部つながっている。理屈は分かりません。私に分かるのは、お陰様、ありがとうございます、もったいない、ごめんなさい、こんなことをずっとやりながら、本当にこれは言霊だな、波動だなと。

今日は 5 つ申し上げました。まず思い、想念、2 番目感謝、3 番目先祖につながる、4 番目積徳、小さな徳を積み重ねる、5 番目言霊。

しっかりやっていただいて、習慣にしてください。必ず運が味方してくれます。もちろん実力を付けていかなくちやいけな。けど同じ実力だったら運が味方しているの方が絶対勝つ。ありがとうございます。

ありませんでした。ということで、学校を創ろうと考えたんです。学校を開いた時から、卒業する時には世界で通ずるインターナショナルテストを受けさせたいという希望でしたので、その準備とカリキュラムを、政府の文部省から出るカリキュラムに併せて始めていきました。一番先に入ってきた子達が 92 年の 9 月から 93 年の 6 月まで。

1993 年、94 年のクラスが終わる時には、生徒が約 80 名になっていました。小さな一軒家では受入れられないので、94 年 9 月にはどうしても新しいところを見つけなければいけません。当時、オマーンはまだ何もありません。砂漠の中に家がポツン、ポツン。だから、学校として使える建物を探すのも非常に大変でした。ラッキーにも新しく開拓された宅地に、1 軒の中に 2 つの家があるところを見つけましたけれども、工事が途中で終わっていたんですね。それを見つけたのが 6 月。学校は 9 月に開きます。これを絶対に借りよう。彼らはお金がなくて建てられないから工事が止まっている。そこからネゴシエーションが始まって、貸してくれることになりました。これから建設する費用は全部私が出しますから、お願いしますということで許可してもらいました。

先生というのは先に生まれると書きます。私達がナレッジを持っているんじゃないで、先に生まれた経験を少しでも次の次代の人達に分けていく。これが私達の生きている使命だと思っています。

朝礼も行います。私が学校を去った時には約 800 名の

生徒がいました。毎朝、生徒と握手して、一言声掛けて教室に送り込んできました。学校が終わると玄関に立って、「さようなら。じゃあ、また明日ね。」先生はアポイントが必要ですが、校長室のドアはいつも開いていて、生徒は自由に入ってこられます。

教育というのはすごく責任があることなんです。だから、お金をもらえばいいんじゃないくて、日本人というのはお金をいただく以上はそれ以上のものを返そうとしますよね。これが日本人のアイデンティティなんだというのを自分で感じました。

学校の授業というのは教育だけではなく、これから20年先、どんな人材が必要なのかということ、私は学校を経営する中で考えなければいけないと思います。これから先、何が必要なのかということ踏まえた上で、教えなければいけない基礎にそれを組み込んでいく、パーソナルディベロップメントというのは非常に大切なことだと思っています。

2006年-2007年はインターナショナルテストの一番難しいAレベルというのを受けまして、驚くべき結果が出ました。イギリスの学校に比べてうちの学校の成績はトップでした。だけど、勉強ばかりはさせていません。余暇を楽しみながら学校の中で勉強をしていく。

幼稚園を入れれば14年間、立派な市民を育てるために、物事を考えること、やる気を持っていること、何か探せること、問題が起こったら解決できる人間を学校が育てていくのが私達の使命だと常に感じていました。

人生の中で、1つの職業の中で、上ったり下ったり、落ち込んだりすることがたくさんあります。だけど、落ち込んだ時に何をするか。自分で解決方法を見つけなければ、人にいくら話をしても見つかるものではありません。私は鏡と向き合って、ワンワン泣きますし、大声で叫ぶこともあります。自分の気持ちを素直にはき出すことによってフレッシュになるんです。

どんなに落ち込んでも太陽は上がってくるし、太陽はいなくなって暗くなっちゃうし。でも必ず時が解決するというのを感じてください。時間というのは人が作り出すものさそうです。何で24時間なんです、何で1時間は60分なんです。人が作り出したもの。時間が過ぎれば、太陽が回ってきます。

私達は本当に小さな砂、お星様。輝きは自分で磨いて輝かせなければ、誰も拾ってくれません。自分で輝かすからこそ生きがいがあるんじゃないですか。地位が上になっても、常に下の人達と会話を交わせるような上司になることが、あなた方の成功につながると思います。

長い人生の中でいろんなことがあります。成功した人、鼻が高くなるのは当然です。成功したからこそ頭が下がっていかなきやいけないんです。1人では何もできません。でも成功しだすと、私達が最初に忘れることは、「ごめんなさい」謝ること。ごめんなさいを言えるのは、日本人達だけです。自分を振り返ることがあってこそ1

歩を進めるわけです。人のことをまず聞く。「知っている、知っている」では、誰も物事を教えてくれません。間違えたら「ごめんなさい」言ってみてください。そしてありがとうございます。ソーリーとサンキューを忘れなければ、必ず成功します。信じてください。

頭の中をいつも白くして受け入れること、スポンジのように人の言っていることを聞くことができること、成功していても人の言葉を聞き入れることができるからこそ次がある。そして一歩進めるということも忘れないでください。

そしてもう1つ、バランス。毎日忙しく働いてばかりいました。健康のことも家族のことも多分考えてなかったでしょう。でもこれからの人は違うと思います。趣味が仕事の役に立つということがたくさんあります。趣味が無ければ海外に出てお話ができません。日本人の一番つまらないところはパーティーに行くと、誰も何も持っていないから話題がないわけ。

今日の中で思い出していただきたいことはたくさんあります。でもソーリーとサンキュー、そして人を思いやる、バランスを取った生活をする。私のモットーです。

私のモットーは、人生に不可能はありません。道は必ず開きます。皆さんは日本、私はオマーン。お互いに違う場所ですけれども、宇宙の中の地球というところで輝きあっている1人としては同じです。

「しこう」まずやりたいことを考えて、計画していきます。そのうち何かが見えて来ます。それに向かって一生懸命やります。考えただけじゃなく、努力をしているからこそ実るわけです。だから不可能はないわけです。眠っていて不可能はありますよ。努力すれば人生に不可能はありません。夢は必ず私達の手の中に入ります。

今日は本当にありがとうございました。お互いに頑張らしましょう。



【質疑】

(塾生)

個性を伸ばすためにはどうしたらいいですか。

(スワードさん)

大人は、子どもたちにこうしなさい、ああしなさいと言っている。こうしなさいと言ってはダメなんです。若

い人達はもっといい意見を持っているかもしれない。それを言う場所が無くなっちゃうわけです。言わせておいて、それを引っ張っていけば個性になっていくと思います。いつも、「なぜ？」と聞いてください。

(塾生)

例えば、学校の先生を誰に決めたのか、いろんな国の方々を先生は選ばれたと思うんです。その辺、仲間とか協力者を集めるのが。

(スワードさん)

それは、自分の選択でしょう。世界の教育関係の新聞に広告を出して、履歴書が来ますね。電話で面接をして、現地に行って、話をして、選んだわけです。自分がするために相手を選ぶんじゃなくて、自分にどういう人が必要なのかというのも考えて。ただし、自分の思っているような人は集まりません、だけど、人それぞれにいいところが必ずあるわけ。だから、そのいいところを見つけ出して使うということが経営者の手腕だと思います。

(塾生)

日本の教育、東京とかですと幼稚園に入るためにお受験とか、そういうシステムというのがあります。お金を出していい学校に入れますという親の気持ちがあるんですけども、そういう日本の教育をスワードさんほどのお考えですか。

(スワードさん)

世界どこでもあります。インターナショナルテストのAというのを取った子どもは、先生達全員、私も含めてびっくりしたわけ。取れる子ではなかったわけ。学校の模擬テストもそんなにいい点数じゃなくて。何がその子の役に立ったかという、常に私のところに来て、「先生、どうしたらいいと思いますか?」「そうよね」って、一緒に悩んで、力づけてあげたことがバネになっていたのをおそらく感じました。お金を出していい成績を取ろうという親は普通ですよ。でも、それをしたらいいのか、させなければいいのか。

(塾長)

パーソナルディベロップメントをまず自分でやって、そして子ども達にパーソナルディベロップメントをさせていく。12年という、日本の高校生ですよ。中学生、高校生あたりで、こっちのあれがいい、これがあれだというのは、大体見えてくるものですか。

(スワードさん)

見えますよ、小学校の頃から。だから、意見を必ず言わせるということです。意見を聞いているうちに、「あっ、この子はこういうのに似ているな。」ということが分かるわけですよ。どの方向に進んでいいかわからないと、高校生のうちは思います。大学の選択もどこにしたらいいかわからない。だから大体のアドバイスはその時点です。人生はネゴシエーションです。子どもに常に言っています。ネゴシエーションをする時は頭が動いているでしょう。次は何を言おうかと。ネゴシエー

ションというのは、まず相手の話をよく聞くこと。それをノーからイエスにいかにするかと。だからやりがいがある。それができる人は成功します。自分の思い通りに動いていく。やり込めるんじゃないで、聞いて、どこに隙があるか。楽しいですよ。生きがいになります。

(塾長)

日本語でネゴシエーションというと、あまりいいイメージがないじゃないですか。でも、全然違うんだ。正義というか。そこから言っていることだから。

(スワードさん)

ただ、自分に損得がある場合は通りません。自分に損得のないネゴシエーションを考えてください。人のためになっているということ。自分に損得があるネゴシエーションというのはダメですよ。いいことをすれば、必ず自分に戻ってきます。私が学校を始めたのは40になるかならないか。基礎づくり。基礎が強ければ高い建物が建ちます。今こそその基礎づくりを頑張ってください。チャレンジ、挑戦ですよ。自分に挑戦してください。心配しないでください。一昨日あたり、落ち込んでいました。でも自分で解決するしかないですからね。泣きたいときには泣く。男性でも女性でも落ち込むことはある。あると思っていれば立ち直れます。

(塾長)

ありがとうございました。日本の教育のすばらしさをオマーンにずっと植え付けてきた。オマーンの方々を日本に来たとき、「さすがだ、先生から教わったとおりのものが日本にあるんだ。残っているんだ」ということを言ってもらえるような国づくりをしていきたいと思えます。今日は本当にありがとうございました。

□グループディスカッション

テーマ：「次代を担う子どもたちに伝えたい、残したい青森の魅力は何か。そのために自分たちができることは何か。」

